

日蓮大聖人御書全集

ぎょうびんごへんじ

行敏御返事

新版  
867  
〜  
868

# 行敏御返事

ぶんえい ねん

文永8年(71)

がつ ちち

7月13日

さい

50歳

ぎようびん

ぎようびん

〈行敏からの初度の難状〉

しよど

なんじよう

げんざん

い

こと

つ

いまだ見参に入らずといえども、事の次いでをもつ

もう

うけたまわ

つね

なら

そうろう

て申し承るは、常の習いに候か。

ふうぶん

た

ぎ

そもそも、風聞のごとくんば、立つるところの義、

ふしん

ほつけ

まえ

と

いっさい

しよきよう

もつとももつて不審なり。法華の前に説ける一切の諸経は

みな

もうご

しゆつり

ほう

いち

だいしよう

皆これ妄語にして出離の法にあらずと〈これ一〉。大小の

かいりつ

せけん

おうわく

あくどう

お

ほう

戒律は世間を誑惑して悪道に墮とさしむるの法なりと〈こ

に ねんぶつ 念仏は無間地獄の業なりと ごう へこれ三 さん。禅宗は天魔

の説、 せつ もし依つて行ずる者は悪見を増長すと し へこれ四 し。

こと 事もし実ならば、 まこと 仏法の怨敵なり。よつて対面を遂

げて悪見を破らんと欲す。 あつけん はたまたその義無くんば、 やぶ いか

でか悪名を被らざらん。 あくみよう 痛ましきかな。 こうむ 是非につけ、 いた 委し

く示し給わるべきなり。 しめ 恐々謹言。 たま

しちがつようか 七月八日

そうぎようびん 僧行敏 ざいはん 在判

にちれんあじやりのごぼう 日蓮阿闍梨御房

ぎようびん 行敏 ごへんじ への御返事

じょうじようごふしん

わたくし

もんどう

ことゆ

がた

そうろう

条々御不審のこと、私の問答は事行き難く候か。

じょうそう

へ

おお

くだ

おもむき

したが

しかれば、上奏を經られ、仰せ下さるるの趣に随つて、

ぜひ きゆうめい

そうろう

おお

こうむ

是非を糾明せらるべく候か。かくのごごとく仰せを蒙り

そうろうじよう

しよき

そうろう

きようきようきんげん

候条、もつとも庶幾するところに候。恐々謹言。

しちがつじゆうさんにち

にちれん

かおう

七月十三日

日蓮

花押

ぎようびんごぼうごへんじ

行敏御房御返事